

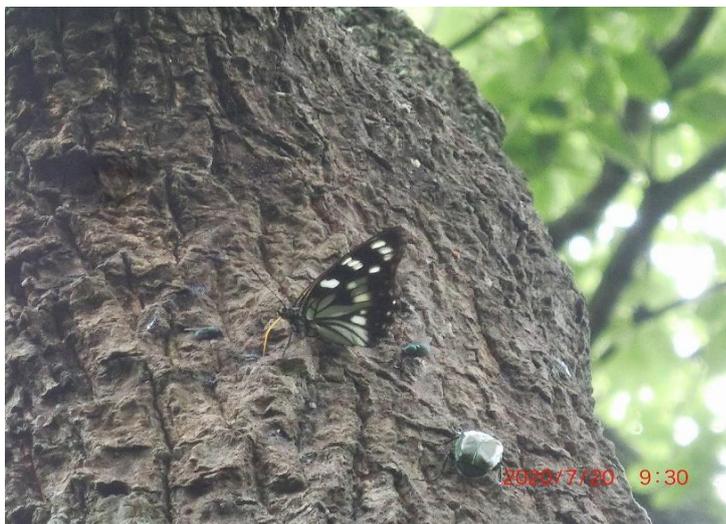
和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
ゴマダラチョウ	タテハチョウ科	橙の眼・黄色の口吻	x	x	△	全国



生田緑地 7月下旬 クヌギの樹液を吸う



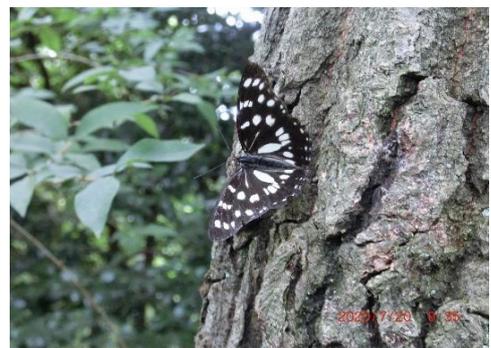
生田緑地 5月末 羽化直後とみられる



生田緑地 7月下旬 クヌギの樹液を吸う

成虫発生時期 (月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
食草 ○ 食樹						発生回数/年		越冬形態			
エノキ						3		幼虫			

生田緑地では時折見られますが、近年アカボシゴマダラ（2006年に東京都、2010年以降は関東全域で分布拡大し、生田緑地でもこの10年で急速に増加。温暖化が原因でなく、蝶マニアが中国産の蝶を持ち込み放したのが発端と考えられている）が増加して同じエノキを食するゴマダラチョウやヒオドシチョウと競合しこれらを駆逐している可能性もあります。関西で過ごした高校時代にオオムラサキとゴマダラチョウの越冬幼虫をとりに行ったことがありますがおオムラサキの方が小型でやせていて驚きました。成虫ではオオムラサキの方がはるかに大きくなります。（画像は全てHenk氏提供）



生田緑地 7月下旬



ハイムのバルコニーに飛来 6月半ば